



村はひとつ 学校はひとつ 願いはひとつ 地域コミュニティを核とした
天栄だからできる少人数教育

2022.1.21

教育委員会だより No.126

愛村心（I 尊心）を育む 天栄村！

発行：天栄村教育委員会



新年あけましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2021 子ども映画学校 in 天栄村

昨年12月25日（土）、26日（日）、27日（月）の3日間にわたり、「子ども映画学校」を開催しました。

本事業は村が主催したもので、福島こどものみらい映画祭実行委員会並びに映画制作会社「楽映舎」協力のもと、子どもたちに、映画制作のプロの方たちの指導を受けながら、映画の台本作りから、演技、撮影、宣伝、配給までの一連の流れを体験してもらうものです。

参加したのは、村内の小学生13名、中学生4名の計17名で、天栄中学校区で2グループ、湯本中学校区で1グループを作り、映画制作に取り組みました。

初日は、テーマ決めと台本作り。大テーマ「村のものがたり」を受けて、どのような内容にするか、各グループで話し合いがなされました。「天栄村のいいところを紹介したい。」「村の特産品を扱ったらどうだろう？」大変活発な話し合いは、丸一日かかりました。

二日目は、いよいよ撮影スタート。子どもたちは、監督の演技指導を受けながら、自分の役を演じました。みんなもちろん初めての経験なので、緊張で表情がかたくなってしまったり、セリフを忘れてしまったりして、何度も撮り直しをする場面が多々ありました。しかし、次第に慣れ、演技に自分のアイデアを提案したり、「監督、次は本番ですか？」と尋ねたり、まるで本物の俳優さんのような人もいました。また、撮影の中で、カメラなどの撮影機材にも触れさせていただきました。この日は、たいへん寒い日でしたが、たくさんの方々が見学に来てくださいました。バスに乗り、ロケ地まで行ってエキストラとして参加してくださった方もいました。

最終日。この日は最後の撮影と、宣伝のためのポスター制作、そして映画発表会が行われました。発表会にもたくさんの方々に来ていただきました。3グループ、それぞれの映画は5～8分間の短い物ではありましたが、どれも子どもたちの「天栄村をいつまでも大切にしていきたい。」「天栄村のひと・もの・こと、みんな大好き!!」という思いがたくさん詰まった、感動する作品でした。



生涯学習事業

村民一人一人が自己の能力を高め、生きがいを持って豊かで充実した人生を送れるよう、誰もがいつでも自由に学習機会を選択できる環境を整え、「愛村心を育むふるさと教育」を目標に取り組んでいます。そうした村民の主体的な学習活動を支援し、習得した知識を地域へ還元できる人づくりを推進していきます。

○「つなぐ英語教育推進事業」

1月5日（水）、天栄中学校で天栄中生徒と、早稲田大学国際教養学部の学生を中心としたサークル「セカクル」が、英語プログラムを通じた交流を行いました。

新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインと対面での交流を併用した英語プログラムを行い、「ありのままの自分を好きになろう」をテーマに自分自身を見つめ直す活動を通して、参加した生徒は積極的に英語と触れ合うことができました。



<セカクルメンバーに直接英語を教わる生徒>

○令和3年度天栄村成人式

1月8日（土）、村生涯学習センターで令和3年度村成人式が行われ、64名が大人の仲間入りをしました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により夏に行われる予定であった式典が延期となり、昭和49年以来、47年ぶりの冬の開催となりました。

式では成人者一人ひとりの名前が読み上げられ、成人証書と村からの記念品として寿々乃井酒造店、松崎酒造店の日本酒に新成人の名前を入れたオリジナルラベルのお酒が贈られました。

また、恩師の先生からのビデオレターでのお祝いメッセージや、成人者から村へ桜の贈呈、10年前の自分からのメッセージの返却があり、出席者は久しぶりに顔を合わせた旧友との再会を喜んでいました。



<成人証書・記念品の授与>



<恩師からのビデオメッセージ>

